

Univ), ed. MicroRNAs : Key Regulators of Oncogenesis. Cham : Springer, 2014. p.413-28.

- 5) Fujita Y, Kuwano K, Ochiya T. 4. The potential role of MicroRNA-based therapy for lung cancer stem cells. Sarkar FH (Wayne State Univ), ed. MicroRNA Targeted Cancer Therapy. Cham : Springer, 2014. p.83-98.

V. その他

- 1) Yamakawa H, Yoshida M, Baba Y, Ishikawa T, Takagi M, Kuwano K. Reversible platypnea-orthodeoxia syndrome induced by rapidly progressive interstitial pneumonia in a patient with polymyositis. Respirol Case Rep 2014 ; 2(3) : 91-4.
- 2) Yamakawa H, Yoshida M, Katagi H, Hirooka S, Okuda K, Ishikawa T, Takagi M, Kuwano K. Pulmonary and retroperitoneal lesions induced by methotrexate-associated lymphoproliferative disorder in a patient with rheumatoid arthritis. Mod Rheumatol 2014 Apr 1. [Epub ahead of print]
- 3) Yoshii Y, Numata T, Ishitobi W, Takahashi N, Wakui H, Kojima J, Shimizu K, Hara H, Ishikawa T, Kawaishi M, Saito K, Araya J, Kaneko Y, Nakayama K, Kuwano K. Lung adenocarcinoma complicated by Trousseau's syndrome successfully treated by a combination of anticoagulant therapy and chemotherapy. Intern Med 2014 ; 53(16) : 1835-9.
- 4) Yamakawa H, Yoshida M, Katagi H, Kuwano K. Pulmonary Hodgkin's lymphoma presenting with a bulging fissure sign. Intern Med 2014 ; 53(17) : 2021-2.
- 5) Yamakawa H, Yoshida M, Takagi M, Kuwano K. Late-onset methotrexate-induced pneumonitis with neutrophilia in bronchoalveolar lavage fluid. BMJ Case Rep 2014 ; doi : 10.1136/bcr-2014-206123.

総合診療部

教授： 大野 岩男 内科学，尿酸代謝，腎臓病学，膠原病

教授： 吉田 博史 総合診療，脂質代謝学，医学教育，臨床栄養学，臨床検査学

(臨床検査医学講座より 出向)

准教授： 大槻 穰治 外傷外科，スポーツ救急

准教授： 根本 昌実 総合内科学，糖尿病学

准教授： 古谷 伸之 総合診療，医学教育

特任准教授：平本 淳 内科学，総合診療，消化器病学

講師： 海老澤高憲 総合内科学，糖尿病学，内分泌学

講師： 三浦 靖彦 総合診療，プライマリ・ケア，臨床倫理，腎臓内科，透析療法

講師： 小此木英男 内科学，腎臓病学，透析療法

(腎臓・高血圧内科より 出向)

教育・研究概要

【本院】

専門診療科が中心となる当病院の内科診療部門において、初診診療を中心とした機能を考慮し、当科が担当する多岐にわたる症候・症状についての状況を分析している。当科を受診する患者において、受診理由（主訴となった症状・症候）、初診・再診の有無、初期診断名、診療内容や転帰（他科への依頼や他院への紹介状況など）を担当医が診察後に記録している。集められた情報の内、症状・症候名と診断名はプライマリ・ケア国際分類第2版（ICP-2）を用いてコード化し、データベース化している。特に初診症例を中心としたこれらのデータの蓄積により、総合外来における、特定の症候・診断名の分布など、当科外来患者の特性を分析・考察することが可能と考えられる。

平成25年度に採択された文部科学省未来医療研究人材養成拠点形成事業「リサーチマインドをもった総合診療医の養成」事業に関して、当科本院診療部長を委員長として学内横断的な総診GP推進委員会を開催している。「総合診療専門医」は基本領域専門医の一つとなることが決定したことから、総合診療専門医の修得を目指す後期研修プログラムを、当診療科が中心となって作成した。

学内および地域医師を対象とした漢方セミナーを定期的に開催した。

【葛飾医療センター】

1. 教育

5年生臨床実習と6年生選択実習を担当し、ベットのサイドの教育を2週間行った。実習終了時に症例をレポートにまとめ発表し評価した。また、5年生を対象としたクルズスを毎月開催した。研修医、後期レジデントについては、毎日の臨床研修の中で総ての診療を主治医として担当した。毎週、症例のプレゼンテーションを行い、症例のまとめ方や発表方法の指導をした。

2. 研究

外来患者、入院患者治療経験から得られた症例を中心とした検討を行った。

1) 下垂体疾患、副腎疾患、甲状腺疾患や電解質異常を示す内分泌疾患の症例を中心とした検討を詳細に行った。

2) プロカルシトニン (PCT) 値に影響を与える因子の検討

細菌性敗血症の炎症マーカーとしてPCTが使われているが、他のホルモンとの関連や起炎菌の違いによる影響を検討した。1年間に入院した発熱症例について調査した。検査項目は、血液培養から検出された細菌種、炎症反応 (PCT, CRP, WBC, 好中球%, リンパ球%), 甲状腺機能, 糖代謝 (随時血糖, HbA1c) である。PCT 値を 2.0 以上 (A 群: 敗血症を強く疑う群), 0.5~1.9 (B 群: 敗血症を疑う群), 0.5 未満 (C 群) に分けて統計解析 (*t* 検定) を行った。患者数は 169 人 (24~96 歳, M/F=90/79) で, A 群は 33 人で平均値 PCT 21.3ng/ml, B 群は 108 人で平均値 PCT 1.06ng/ml, C 群は 28 人で平均値 PCT 0.16ng/ml であった。PCT 高値であると CRP, 白血球数, 好中球%が増加し, リンパ球%は低下する傾向を認めた。PCT 値と甲状腺機能との相関はなく, 糖代謝については随時血糖と HbA1c との相関を認め, B 群は C 群と比較して有意に高値であった。血液培養については, A 群ではクレブシエラ菌, ブドウ球菌, 大腸菌, 溶連菌が 48.4%に認められた。B 群ではブドウ球菌に加えバシルス菌など弱毒菌が 13.3%に検出された。C 群ではコンタミネーションの可能性が高いが, キャンピロバクターやカンジダが検出された症例があった。

【第三病院】

1. リウマチ性多発筋痛症に関する検討

高齢化で増加するリウマチ性多発筋痛症について、欧米のガイドラインと当科での症例を比較し日本での傾向を検討した。

2. 高齢者の低ナトリウム血症に関する検討

高齢者の低ナトリウム血症について原因と治療について臨床面から検討した。

3. 敗血症の診断に関する検討

敗血症の早期診断のマーカーとして従来の白血球, CRP, プロカルシトニンに加え, プレセプシンの継時的推移について検討を開始した。

【柏病院】

1. 地域連携の強化

柏市医師会所属の医師との連携を深めるため、非常勤委員となってもらえるよう調整中である。

また、「慈恵医大柏病院総合診療セミナー」を開催し、地域医療に必要な情報を発信する機会を構築した。さらに、がん拠点病院事業、地域連携センター事業と協働して、臨床倫理に関するセミナーを開催し、連携強化、地域の臨床力の向上にも尽力している。平成 27 年度は、地域の家庭医と協働での学会発表を予定している。

2. 学生教育

古谷伸之准教授は学内カリキュラム委員会委員、臨床実習教育委員会委員として新橋校と柏病院の架け橋となり活躍している。三浦靖彦講師も、医学部 5 年生の柏内科実習の一部を担当している。この中で、本院・他の分院では経験できない、総合診療、医療のプロフェッショナルリズム、臨床倫理について学べるよう工夫している。また、他学学生の見学実習も積極的に受け入れている。

研修医教育に於けるポートフォリオおよび e-portfolio の構築と運用を行った。厚生労働省からの視察があり、高い評価を得た。

総合診療に於ける初期研修プログラムの開発。次年度に登録する事とした。

EBM に於ける患者中心性の教育について、5 年次学生に実施し、学会発表を行った。

3. 大学病院・病院総合医としての立場の確立

近年、総合医の必要性が脚光を浴びているが、僻地におけるプライマリ・ケアを担当するプライマリ・ケア医と、大学病院等、大病院における病院総合医は、求められるものが若干異なる。そこで、柏病院における総合診療部に求められているものを通じて、大学病院において求められる病院総合医像を

確立し、後進の指導・育成に生かしている。

4. 病院臨床倫理委員会, 臨床倫理コンサルテーションチームの確立

高齢・多死社会を迎え、大学病院内においても、臨床倫理的な問題を重要視すべき状況となっている。病院機能評価においても必須とされている。臨床倫理的問題を扱う部門として、柏病院内にも病院臨床倫理委員会および臨床倫理コンサルテーションチームが設立され、現在まで順調に運営しているところである。

【点検・評価】

【本院】

教育に関しては、平成20年度から、5年生の臨床実習において、内科の外来実習が組み込まれ、当診療科が中心となってカリキュラムを遂行している。毎週2～3人ずつの小グループを受け入れ外来診療の現場における医療面接の実際、診断学・症候学的な見地から診療の実際を教育している。今後、クリニカルクラークシップに基づいた外来実習をさらに推進する必要がある。

【葛飾医療センター】

教育に関しては、救急、入院患者の診療を通して広く内科一般の診断、治療に関して基礎的なアプローチ法について教育した。特に原因不明疾患の診断推論法について細かく指導した。5年生の発表内容もレポートもおおむね完成されたものであった。また、内科急性期疾患（肺炎、脳梗塞、尿路感染症）の診療を通して卒後教育を行うことができたと考えられる。

研究に関しては、内分泌症例を中心とした検討を行い関連学会に報告し、論文（学会抄録）として発表した。プロカルシトニン値に影響を与える因子の検討に関しては、さらにインスリン抵抗性と炎症との関連について調査検討して上で報告したい。

【第三病院】

リウマチ性多発筋痛症に関する検討：症状としては、朝のこわばりは約30%にしか見られず、感度がよくないことが判明した。検査ではCRP陽性は全例陽性、MMP-3高値も80%以上に認められ、重要であった。治療ではプレドニゾロンは軽症例では、10mgからでも治療可能であることがわかった。治癒する例は約50%であり、半数は継続治療が必要であることが判明した。

高齢者の低ナトリウム血症に関する検討：炎症など軽度ストレスにより、非浸透圧性にADH分泌が増加し起こるSIADHが高齢者には多いことが判明

した。

敗血症の診断に関する検討：従来のマーカーの推移では早期診断には限界が存在することが判明し、プレセプシンを新たなマーカーとして検討に加えた。

【柏病院】

診断困難事例に対応する総合診療医のメディアへの頻繁な登場、また、本学の建学の精神である「病気を診ずして病人を診よ」に現わされる診療態度の重要性に対する全国的な認知度も高まってきたためか、患者自らが総合診療部を受診希望する者が増加している。同時に、地域医療機関から総合診療部に紹介される患者も増加してきており、当地区における柏病院総合診療部の認知度は高まってきた。一方、東京慈恵会医科大学において未来医療研究人材養成拠点形成事業が採択され、当該事業の一環としての「慈恵医大柏病院総合診療セミナー」も開設され、地域への発信力も高まっている。柏病院内に、臨床倫理委員会及び臨床倫理コンサルテーションチームが設立され、徐々に成果が上がってきている。

研究業績

II. 総説

- 1) Ohno I (as work group member). Evidence-based clinical guideline for CKD 2013. Clin Exp Nephrol 2014; 18(3): 346-423.
- 2) 大野岩男. 【AKI診療の進歩】造影剤. 腎と透析 2014; 76(4): 566-9.
- 3) 大野岩男. 【内科疾患 最新の治療 明日への指針】(第3章) 腎臓造影剤腎症. 内科 2014; 113(6): 1181.

III. 学会発表

- 1) 大野岩男. (会長講演) 高尿酸血症とCKD・CVDとの関連. 第48回日本痛風・核酸代謝学会総会. 東京, 2月.
- 2) 大野岩男. (市民公開講座: 痛風と高尿酸血症) 2. 痛風・高尿酸血症のお薬について. 第48回日本痛風・核酸代謝学会総会, 東京, 2月.
- 3) 高柳久美子¹⁾, 斉藤俊之¹⁾, 奥田純平¹⁾, 辻 敦¹⁾, 伊東久美子¹⁾, 藤井和治¹⁾, 寺脇博之(福島県立医科大), 伊藤宗成¹⁾, 三浦靖彦, 藤崎康人¹⁾ (総合医療センター成田病院). 血液透析患者に発症し週1回の terbinafine 投与により軽快した爪白癬の一例. 第59回日本透析医学会学術集会・総会. 神戸, 6月.
- 4) 大賀由花(赤磐医師会病院), 齋藤 凡¹⁾, 三浦靖彦, 守山敏樹(大阪大), 大脇浩香(岡山済世会総合病院), 石橋由孝(日本赤十字社医療センター), 会田薫子¹⁾,

清水哲郎¹⁾ (1東京大). 高齢 CKD 患者の治療選択に関する意思決定支援ツールの作成. 第 59 回日本透析医学会学術集会・総会. 神戸, 6月.

5) 三浦靖彦. 日本版 POLST について (基本姿勢). 日本臨床倫理学第 3 回年次大会. 東京, 3月.

IV. 著 書

1) 根本昌実, 佐々木敬. 第 6 章: 特別な配慮を必要とするケース D. 特殊な病態における糖尿病治療 1. 外科手術, ICU での管理. 永井良三 (自治医科大学) 総監修. 糖尿病研修ノート. 改訂第 2 版. 東京: 診断と治療社, 2014. p.502-6.

2) 三浦靖彦. 第 8 章: 医療倫理としての考え. 横浜市医師会編. 終末期の医療: 長高齢社会に向けての心構え (横浜市医師会医学シリーズ: 第 31 集). 横浜: 横浜市医師会, 2014. p.55-63.

V. その他

1) 大野岩男. (ランチョンセミナー13) 高尿酸血症と CKD・CVD との関連 UPDATE. 第 87 回日本内分泌学会学術総会. 福岡, 4月.

2) 大野岩男. (ランチョンセミナー28) 高尿酸血症と高血圧・CKD との関連. 第 57 回日本腎臓学会学術総会. 横浜, 7月.

精神医学講座

教授: 中山 和彦	精神薬理学, てんかん学
教授: 伊藤 洋	精神生理学, 睡眠学
教授: 中村 敬	精神病理学, 森田療法
教授: 宮田 久嗣	精神薬理学, 薬物依存
教授: 須江 洋成	臨床脳波学, てんかん学
准教授: 忽滑谷和孝	総合病院精神医学
准教授: 山寺 亘	精神生理学, 睡眠学
准教授: 小曾根基裕	精神生理学, 睡眠学
准教授: 小野 和哉	精神病理学, 児童精神医学
講師: 塩路理恵子	精神病理学, 森田療法
講師: 館野 歩	森田療法, 比較精神療法
講師: 伊藤 達彦	総合病院精神医学, 精神腫瘍学
講師: 中村 晃士	精神分析的精神医学, 児童思春期精神医学
講師: 角 徳文	老年精神医学
講師: 古賀聖名子	精神薬理学, 質の心理学
講師: 川村 諭	精神薬理学

教育・研究概要

I. 精神病理・精神療法・児童精神医学研究会

我々は, 精神療法と精神病理学的研究, および児童精神医学分野の研究を施行している。我々は精神科の入院治療における発達障害の治療システムを研究している。近年わが国での児童思春期精神障害症例に特化された専門治療施設は限られているのが現状である。しかし児童思春期の精神障害は一般の精神科外来で対応されることが常態化してきている。またこのような事例は一部入院症例として一般病棟でもある程度対応されていることと考えられる。そこでこのような児童症例の治療には症例に特化した治療技法が求められる。それゆえ我々は2000年から, 児童思春期精神障害事例の一般精神科病棟で治療的対応技法について156症例を集積して検討してきた。その結果, 一般病棟で児童思春期症例に対応するための新しい治療の方略が明らかになった。また, 発達障害と精神障害に共通する「注意障害」に関してその相違の研究を進めている。この結果, 統合失調症に比して自閉症スペクトラムでは1つのことに集中を維持する機能は保たれるものの, いくつものタスクが加わると, 注意・集中の維持が困難になる傾向があることが明らかになってきた。精神療法分野では, 従来から研究している DBT (弁証法的行動療法) の日本での汎用化のための技法の開発を進め